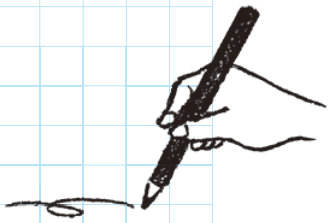
# 学校教育

町内の
小中学校を
ご紹介②



㊐教育委員会事務局学校教育係　☎0943-32-0093

## 下広川小学校

タブレットを活用したICT教育を進めている下広川小学校。
後藤校長（写真右）とICT教育推進担当の永田教諭（写真左）
に話を伺いました。

**Q タブレットを授業でどのように活用していますか？**

**後藤校長**　タブレットは全児童に配布しており、低学年では主に写真を撮ったり、中学年では検索エンジンを使って調べ物をしたりすることに活用しています。高学年の算数の授業では、ノートに書いた自分の考えを撮影し、クラスで共有したり、総合的な学習の時間では、石人山古墳についてプレゼンテーションしたりするなど、発達段階に応じて活用の仕方を工夫しています。毎朝15分間、全児童が基礎学習の定着に取り組むスキルタイムでは、ミライシードというソフトを使ってドリル学習も行っています。

**永田教諭**　体育の授業で児童に跳び箱やマット運動を教えるときには、指導員が事前に演技を撮影し、それを児童に見せることで、動きのイメージをとらえやすくすることが可能です。自分の演技を撮影し、修正点を確認させることで、児童自身の技の向上にもつながります。図工の授業では、自分の作品を撮影し、クラス全体で鑑賞しています。

**Q タブレットを使って良かった点を教えてください。**

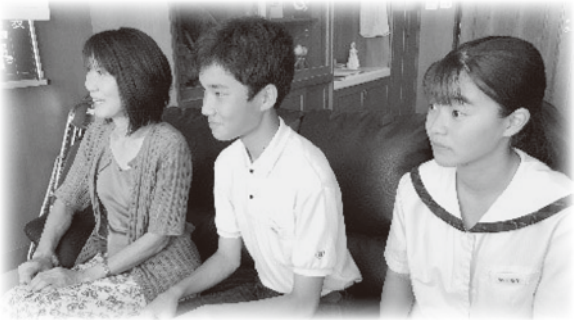
**永田教諭**　児童が撮影した活動の動画や作成した作品を一括してサーバーに保管できるので、以前より評価をしやすくなりました。

**Q ICT教育を通して、児童はどう変わりましたか？**

**後藤校長**　これまで先生に指示されて活動することが多かった児童が、進んで自分の活動を振り返ったり、発表したりすることができるようになってきました。授業だけでなく、ほかの活動や遊びにおいても積極性や自主性が高まっているように感じます。タブレットを使うことはもちろん大切ですが、使うことによって得られる利点を生かし、今年度の重点目標である「自ら考え、実践する子どもの育成」に努めていきたいと思います。

タブレットで学習する児童

# 広川中学校



広中キャラクターの製作など、常に新しいことに挑戦する広川中学校。古川校長（写真左）と生徒会長の髙鍋さん（写真中央）、副会長の弥吉さん（写真右）に話を伺いました。

## Q これまでの生徒会の活躍について教えてください。

**古川校長**　５月の体育大会に向けて、生徒会はスローガン「繋（つなぐ）」を発表し「友達同士がより強くつながり、一つの集団になってほしい」という願いのもと、準備を進めてきました。そんな中、緊急事態宣言が出され、体育大会はやむなく中止に。しかし、何とかかたちにしていこうと、学年ごとに簡素化した取り組みが行われました。中体連大会の出発時には、生徒会や文化部の生徒が横断幕を掲げながら見送りをし、「繋」に込めた思いを広げる姿もみられました。オンラインで中体連大会の激励会や生徒総会も開催されています。

## Q 今年度生徒会が特に力を入れている活動は何ですか？

**髙鍋さん**　あいさつ運動です。あいさつは人と人がつながる大切なコミュニケーション。そこで、広川中学校では 5S（stop= 立ち止まって、smile= 笑顔で、spark= 明るく元気に、speed= 相手より先に、sprit= 心をこめて）のあいさつ＋１（プラスワン・大きな声で）を意識して、あいさつ運動に取り組んでいます。ほかにも、今後はタブレットを使ったオンラインでの集会や会議が増えると思うので、画面上で伝達している人の背景を広中らしいデザインにアレンジするなど、新たな取り組みも考え中です。

## Q 今年度の生徒会のスローガンは何ですか？

**弥吉さん**　「挑（いどむ）～失敗を恐れずさらなる挑戦を～」です。「挑」という言葉には、自分から積極的に行動するという意味があり、生徒一人ひとりが積極的に行動することで、かっこいい広中生、そして活気あふれる広川中学校になると考えました。しかし、失敗を恐れず挑戦するには、挑戦する人を応援・サポートできる環境が必要です。私たち生徒会は、そのような温かい広中を目指します。新たなことに挑戦しないことには何も変わりません。失敗を恐れず、さらなることに挑戦していきたいと思います。

オンラインで生徒総会をする生徒

中体連大会時に選手を見送る生徒会と文化部員